

経済学部における全学教育と専攻教育の接続

九州大学大学院経済学研究院 古川 哲也

経済学部の教育目的

経済学部は、「日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本および世界の発展に貢献する」という九州大学憲章における教育目的を、学部教育において実現することを目的としている。この目的を達成するため、

経済学の基礎的学識と幅広い教養に加えて、専門的能力を磨き、社会性と国際性及び高い倫理性とを身に付けた、様々な分野で指導的な立場で活躍できる人材を養成するという中期目標を設定している。

経済学部は経済・経営学科と経済工学科からなり、それぞれ「現代的関心と課題解決能力、外国語能力に基礎付けられた国際性、幅広い社会・文化的教養を有する人材の育成」、「現実感覚、問題発見・解決のための創造的思考力、論理力、外国語能力、数学的能力を身につけた人材の育成」を教育の目的としている。

全学教育における教養教育

幅広い教養と経済学分野における専門知識を併せ持つ人材を社会に供給し、その能力を保証するという基本方針のもとで、広い教養を身につけるという観点から行われる全学教育と深い専門的知識を習得するための専攻教育が積み重ね方式で体系化されている。

全学教育では、専攻教育の基礎となる要諦の部分について必修科目を配置するとともに、幅広い視野を確保するために選択科目を多数配置している。特に、高校での限られた科目履修を補填するため、文系及び理系コア科目に最低修得単位数を設定し幅広い学習を促している。

全学教育は、一般に専攻教育のための基礎と幅広い教養という2つの側面で捉えられており、経済学部の教育体系でもこれらの側面がある。幅広い教養という側面は経済学部の教育の目的ともなっているもので、様々な分野に触れることは人間性を高めることにもつながる。卒業生は、実業界、官界、学界をはじめ多様な分野に進路をとっており、様々な分野で活躍する人材を育成するという観点からの全学教育の役割は大きい。

経済学は、社会の様々な分野がその対象となる。また、現代社会は複雑さと多様性を増しており、社会に対する関心は経済学の学習においてなくてはならないものである。幅広い教養は社会に対する関心を高め、多様な視点から経済を考えて様々な分野の関連性を想起する能力を養う。このように、全学教育は単に幅広い教養を身につけるというだけではなく、専攻教育において経済学を学ぶ上での基礎としても位置づけられる。

全学教育の必修科目

経済学部では全学教育科目は幅広く選択できるような体系としているが、専攻教育に必要な数学

と情報処理は必修としている。

ミクロ経済学やマクロ経済学を学ぶためには、微積分などの数学の知識が必要となる。そのため、経済・経営学科では理系基礎科目である微分積分学，線形代数各2単位，合計4単位を必修科目としている。専攻教育でより高度な数学的知識を必要とする経済工学科では，微分積分学・同演習A，微分積分学・同演習B，線形代数・同演習A，線形代数・同演習B各1.5単位，合計6単位と，微分積分論2単位が必修である。これらは，1，2年次の基本科目，3，4年次の専攻教育科目を学習するための基礎となる。統計学は専門科目を学習するための数学的基礎のもう1つの柱であるが，これは全学教育によらず専攻教育の中で科目を設置している。

専攻教育においては，データの整理と分析，レポートの作成，プレゼンテーションなどコンピュータの利用は必要不可欠である。そのための導入として全学教育の情報処理演習を必修に指定している。ここでの基本的なコンピュータ利用の基礎は，専攻教育における基本科目の情報処理Ⅰ（表計算ソフトを用いたデータ処理，分析），経済工学科の基本科目で経済・経営学科の自由選択科目である情報処理Ⅱ（プログラミング），さらには統計解析ソフトを用いたデータ分析を行う科目の学習やゼミでの高度なコンピュータ利用へとつながっている。

コアセミナー

コアセミナーは，入学後のモチベーションの維持発展や学生の社会性の欠如への対策として全学教育に導入されたものである。経済学部では，当初経済・経営学科6クラス，経済工学科4クラスを開講していたが，全学教育科目から専攻教育科目への接続と平成19年度に導入された修学指導体制へのコアセミナーの組み込みから，きめ細かな教育と指導が行えるように1クラスの人数を少なくするため，現在では経済・経営学科8クラス，経済工学科5クラスの開講としている。

経済学部での修学指導体制では，コアセミナーで1年次における教育に関する指導を行っている。担当教員の専門分野の学習を通じて，経済学部で何を学ぶのか，全学教育がどのように専攻教育につながるのかを含めどのように学習していけばよいのかを理解することも，コアセミナーの主要な内容である。前期終了時にはコアセミナー担当教員によって全1年生の面談を行い，入学後の学習状況をチェックしている。